

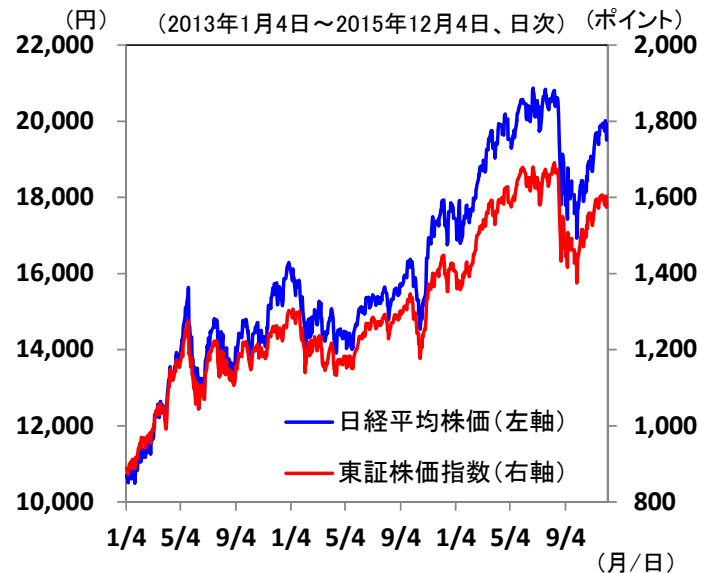
# 週間市場レポート

(2015年11月30日～12月4日)

## (1) 日本の株式・債券市場

### 株式市場の動き

- 先週の日本株式市場(日経平均株価)は、12月1日(火)には、今年7～9月期の設備投資伸び率が約8年ぶりの高水準だったことから買われ、今年8月20日以来となる2万円台で引けました。その後は手掛かりとなる材料に乏しく、横ばいで推移しました。4日(金)は欧州中央銀行(ECB)の追加緩和策への失望から欧米株価が下落し、円高の動きもあって売られました。(週末引け値:19,504.48円)
- 週間では、日経平均株価は1.91%の下落、東証株価指数は1.28%の下落でした。



出所:ブルームバーグのデータをもとに  
ニッセイアセットマネジメントが作成

### 債券市場の動き

- 先週の日本債券市場(10年国債)は、12月1日(火)の10年債入札が好調な結果となったことから買いが優勢となり価格は上昇(金利低下)しました。その後は、高値警戒感や欧州中央銀行(ECB)理事会を控えて売りに押される場面もありましたが、好需給を意識した買いが旺盛で底堅く推移しました。4日(金)は、ECBの追加緩和策への失望から欧米債券が下落し、その流れを引き継いだ形で売られて(金利上昇)引けました。(週末引け値:0.341%)
- 週間では、10年国債金利は0.033%の低下でした。



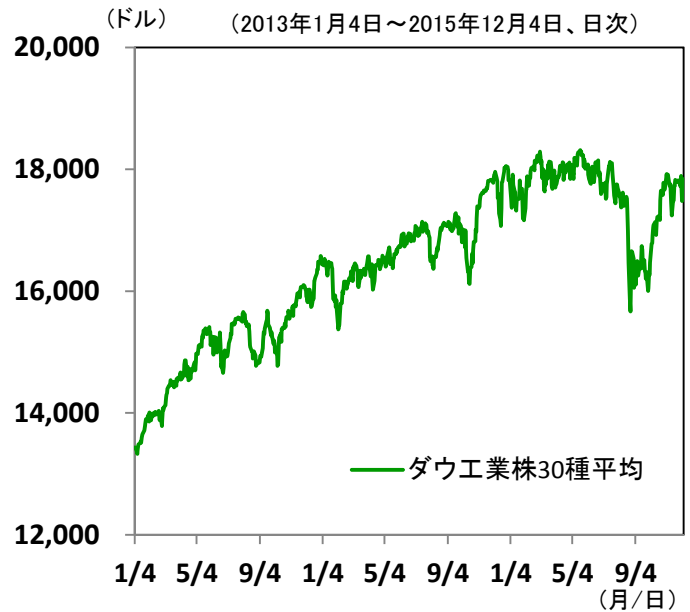
出所:ブルームバーグのデータをもとに  
ニッセイアセットマネジメントが作成

## (2) 米国の株式市場

### 市場の動き

■先週の米国株式市場(NYダウ)は、週半ばまでは国内外での重要イベントを前に手控えられている中、クリスマス商戦の状況や原油価格の動きに反応して、狭い値幅を上下に動く展開となりました。12月3日(木)は、欧州中央銀行(ECB)の追加緩和策への失望から欧州主要国の株価が下落したことで売られました(前日比約252ドル安)。4日(金)は、米雇用統計が市場予想を上回る水準になったことから米景気回復への期待感が高まり、前日比約369ドル高と大幅に上昇して引けました。(週末引け値:17,847.63ドル)

■週間ではNYダウは0.28%の上昇となりました。



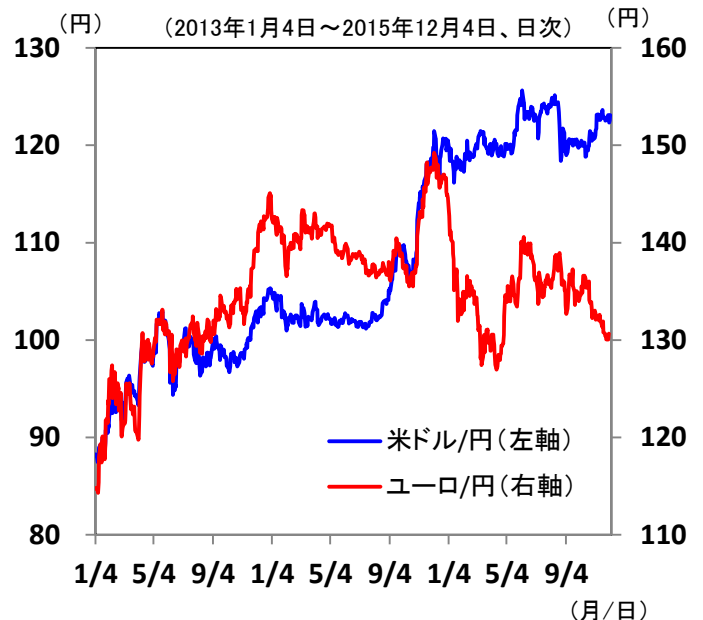
出所:ブルームバーグのデータをもとに  
ニッセイアセットマネジメントが作成

## (3) 外国為替市場

### 市場の動き

■先週の米ドル/円相場は、12月3日(水)の欧州中央銀行(ECB)理事会を巡る思惑からドル買いユーロ売りが優勢となった動きを受けて円も対ドルで売られ、2日(水)には一時123円68銭まで円安が進行しました。3日(木)には、ECBの追加緩和策への失望から一旦はドル安円高となったものの、4日(金)は、米雇用統計が市場予想を上回り、米景気回復への期待や12月の米利上げが意識されてドル高円安が進みました。(週末引け値:123円05銭～15銭)

■週間では米ドル/円は0.25%の円安、ユーロ/円は2.97%の円安となりました。



出所:ブルームバーグのデータをもとに  
ニッセイアセットマネジメントが作成